

# 茨城大生インターンシップ研修①

大学院1年次

## 飯塚 大空

茨城大学の男女学生4人が8月下旬から茨城新聞社でインターンシップ（就業体験）を行った。社内各部門の研修を踏まえ、それぞれ自由にテーマを選び取材に挑んだ。学生たちがまとめた記事を4回シリーズで掲載する。

学教員らによるアカデミックな公開講座のほか、学生や来場者を交えたフリートークなどがお目見え。回を重ねることにリピーターも増えてき

れまでに「古文書寺子屋」や「移動博物館」「茨城が生んだ地理学者」など計18のイベントが開かれた。会場では学教員らがナビゲーターとなり、

品中の場面設定の意味などをめぐって意見交換する姿が見られた。

開始からちょうど1年を迎える今年10月からのアカデミーでは、Jリーグの舞台裏を聞く「フットボールカフェ」や、5月にラムサール条約に登録された酒沼の魅力を語る連続講座なども用意されている。

## 土曜アカデミー

# 学びの魅力伝え1年

た。

土曜アカデミーは昨年10月スタート。これに

参加者に大学の学問を分かりやすくレクチャーす

高橋館長は「大学は敷居が高いと思われがち。イベントとして気軽に参

茨城大学図書館（水戸市文京、高橋修館長）が、大学の知を地域の人々ともに味わうユニークな試みを繰り広げている。「土曜アカデミー」。館内の

たのは、地域の人と学生が共に学ぶ場を提供するためだ。

アカデミーは毎回異なるテーマが設定され、こ

このうち、ヘルマン・ヘッセや「宝島」のステイブンソンら名作・古典の文学作品を読む「ブックカフェ」の会場では、同アカデミーの問い合わせは、同図書館利用支

裏側にある思いや意図について学ぶことができ。今後の学生生活、就職活動に学んだことを生かしたい。



「土曜アカデミー」展開の意欲を語る茨城大学図書館の高橋修館長＝水戸市文京

## 研修を終えて

授係☎029（228）8076へ。

研修を通して、新聞の紙面に載っている情報の